

上海日本人学校・現地校の教育事情

岡山市立芥子山小学校 教諭 井原 進一郎

1 現地校の教育事情（英語活動を中心に）

（1）現地幼稚園の教育事情

上海では英語教育への熱が高く、幼稚園の段階から英語活動を取り入れていることが多い。そんな上海で、幼稚園ではどのような英語教育がおこなわれているのか探ってみた。調査対象とした幼稚園は「三之三幼稚園」、台湾資本の幼稚園で中国内にいくつかの園を展開している。園には中文班（一般コース）と国際班（英語活動の割合が多いコース）の二つのコースがある。

国際クラスの場合は、ネイティブのイングリッシュティーチャーと英語を話すことのできる中国人の先生の二人体制で子どもたちの指導に当たっている。日常使用言語は英語で、教師と子どものコミュニケーションはもちろん、子ども同士のコミュニケーションも英語で行うように指導されている。

幼稚園卒園時の目標レベルは「日常の簡単な英会話や簡単な英単語の習得」であり、そのレベルに子どもたちを達成させるため、独自の英語教材を使ったり、ゲームを行ったりしている。家庭への働きかけも熱心で、幼稚園で使われているものと同じリスニング教材が各家庭に配られ、リスニング力のアップを図るようにしている。また「plate plane princess prime」など発音が近い単語表が渡され、家庭でも練習を促されたり、簡単な物語がのっている英語の教科書を持ち帰って読めるようにしてくるよう連絡があったりと家庭学習でもある程度英語学習を行うことが求められる。

（2）現地小学校の教育事情

小学校でも英語教育への取り組みは熱心である。上海の小学校は教科担任制であり、英語も専任の教員が担当している。英語の授業はほぼ毎日行われ、高学年になると1日2時間行われる曜日もある。

見学に行った学校では、いずれもパソコンソフトを使って英語の授業が進められており、授業中の指示など全て英語である。

2 上海日本人学校の教育事情

（1）英語活動

英語に慣れ親しむことをねらいとして行われている。授業時数は週に1時間。低学年はクラス単位の活動で、ネイティブスピーカー・英語担当教員・クラス担任の3人体制で授業が進められる。中学年はクラスを半分に分けての活動で、ネイティブスピーカーと担任担当のクラス、英語担当教員のクラスに分けられる。高学年もクラスを半分に分けての活動になるが、どちらもネイティブスピーカーが担当し、すべて英語で授業が進められる。中学年・高学年ともクラスは半期で入れ替わる。活動内容は、ゲームを中心にしたものが多く、子どもたちが英語に親しむことができるよう工夫されている。

（2）中国語

中国語の一定の習得をねらいとして行われている。授業時数は週に1時間。中国語の習得レベルに応じていくつかのクラスに分かれている。活動内容は英語と同様にゲームを取り入れたものが多くなっている。

